

HOPES

ホープス セカンド
2nd

青田 豊実さん（前田）
青田さんは、4人兄弟の末っ子。就農前は、東京で会社勤めをしていました。その後、故郷へ戻り、両親と共に農業に励んでいました。「当時は、野菜、牛、米をやっていました。複合経営ですね」。そして、震災を経験。伊達市に避難した青田さんは、「ひたて全村見守り隊」に参加した後、村のICT（情報通信技術）職員として伊達東・相馬大野台の仮設住宅に

故郷を未来につなぐ米づくり



昨年から稻作を再開しました。地元の人々と協力し、地域で休耕している圃場も活用して、集落営農を行っています。この秋は、5haの食用米、4haの飼料用米と、モチ米を収穫します。



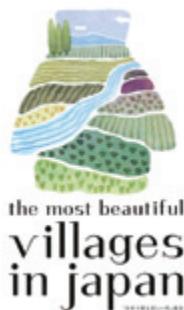
豊かに実った稻穂が、秋の日差しに輝きます。「(作柄は)まあまあかな」と笑顔を見せる青田さん。大型コンバインを器用に操縦し、端からきれいに刈り取っていました。※10/2取材

再開後は、苗を作らず直接水田に種モミを蒔く「直播」で稻作を行っています。「稻作は生産方法が確立されています。これからは、なるべく手をかけずにできる工夫が必要です」。収益の向上も目指し、水田は「来年は15町歩に、翌年は20町歩に」と拡大していく計画です。

「両親のやつてきた農業。私も仕事をやめて、せつかく戻つて來たのですから、地元でなければ再開する意味がないかったんですよ」と青田さん。

「早く嫁さんをもつて、家族をつくつて、次につなげられればいいですね」と、やさしい笑顔を見せました。

※1町歩は約1ha



飯館村は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。

△編集後記

大型の台風による甚大な被害が全国で発生しました。私たちは、何度も困難に遭つても立ち上がり生きました。ひとりじゃない。手を取ってくれる人がいる」と。あたりまえがいかに大切で、ありがたいかを知っているから。笑顔と故郷を取り戻すために、何度も何度も皆さんと共に歩ませてください。(木幡)

●皆さんの力を借りしなければ成り立たない広報取材。大きな災害の影響で、内容を変更した今号でやさしく、さまざまな協力をいたしました。ありがとうございます。本当にありがとうございました。今回の被災で、苦労されている方にも、早く穏やかな日々が戻りますよう。また元気な笑顔に会えますよう。願わざにはいられません。(星)